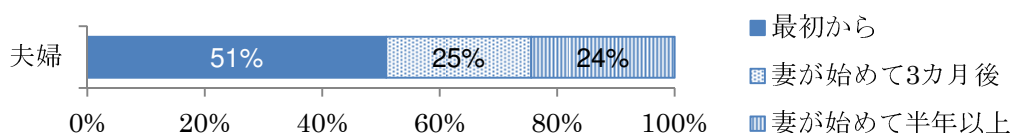


3 夫婦ともに不妊検査を受けている夫婦の意識

(1) 夫婦両方が不妊検査を開始したタイミング

およそ半数の夫婦が「最初から夫婦そろって行った」と回答。残りの半数は妻の検査開始から遅れて夫が検査を開始したという結果になった。

<表 2 0 : 夫婦両方が不妊検査を開始したタイミングは概ねいつからですか>

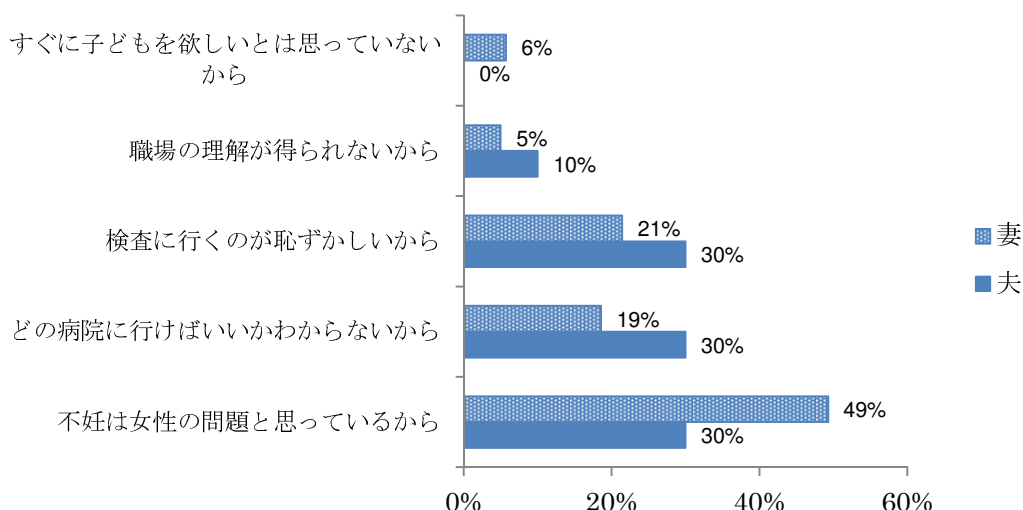


(2) 夫が妻と同時に検査を開始しなかった理由

夫の意見では「不妊を女性の問題とっていた」「どの病院に行けばいいのかわからなかった」「検査に行くのが恥ずかしかった」が同率で最多となった。

妻の意見では「不妊を女性の問題とっていた」が最多となった。

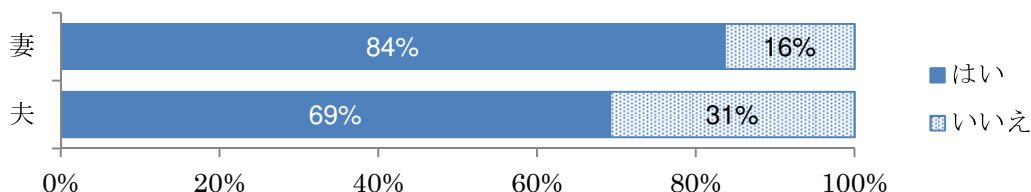
<表 2 1 : 夫が妻と同時に不妊検査をしなかった理由はなぜですか (複数回答) >



(3) 助成制度の認知度

夫婦ともに助成制度を知っている割合が過半数となった。特に、妻は8割以上と高い割合で知っている。

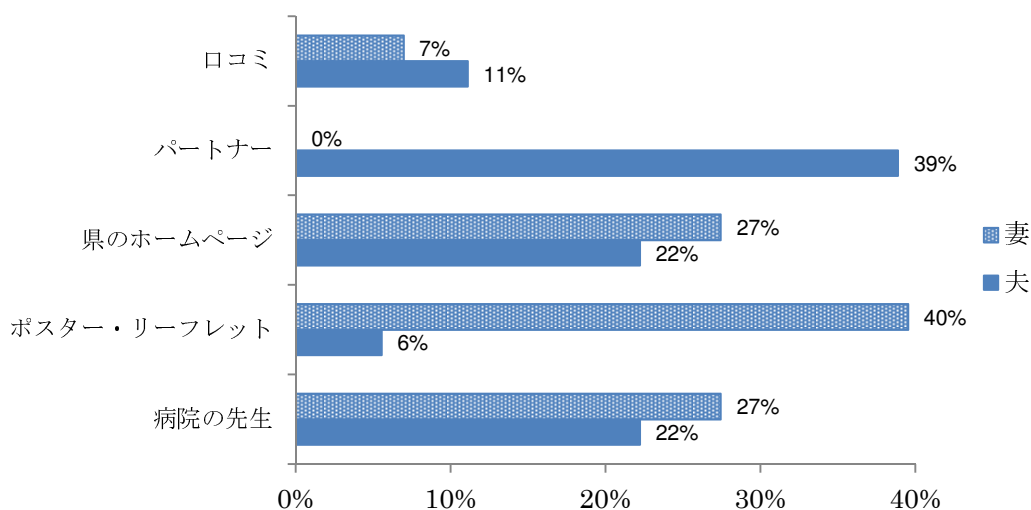
<表 2 2 : 助成制度があることを知っている>



(4) 助成制度を知った媒体について

「ポスター・リーフレット」が回答数としては最も多く、次点で「県のホームページ」「病院の先生」の順となった。一方、夫は妻から助成制度を聞いた割合が最も高く、次いで「病院の先生」、「県のホームページ」の順に多かった。

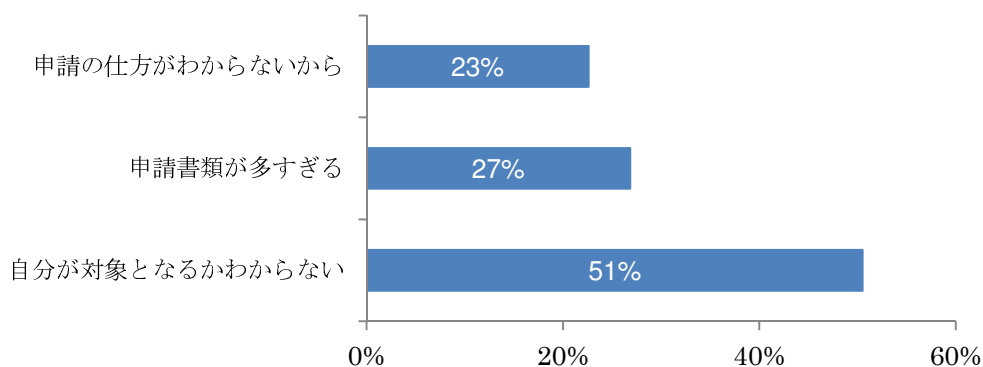
<表 2 3 : 助成制度をどこで知りましたか>



(5) 助成制度を活用していない理由（申請したときに困ったこと）

「自分が対象となるかわからない」が 51%と最多となった。次いで「申請書類が多すぎる」、「申請の仕方がわからない」が続いた。回答者に対して助成制度の利用有無を尋ねていないため、現状申請していない層の純粋な意見は不明であるが、全体として助成制度の手続きが負担に感じられていることが分かった。

<表 2 4 : 助成制度を活用していない理由（または申請したときに困ったこと）は何ですか>



(6) 妊活・不妊治療についての意識

妻は職場のサポートを望む声が多い。検査・治療は身体の周期の影響を受けることから、急に仕事を休む必要も生じるため、職場の理解・協力を得られやすい環境が求められている。夫は早期に受診すべきだったと感じている割合が高い。

<表 25 : 妊活・不妊治療で特に共感するフレーズを教えてください>

